

週間展望・回顧(豪ドル、南ア・ランド)

July 9, 2021

豪ドル、雇用統計の更なる改善あるか注目

- ◆豪ドル、失業率を中心に更なる雇用統計の改善となるか注目
- ◆豪ドル、RBNZ 後の NZ ドルの動きに連れる可能性も
- ◆ZAR、ブラックロックの見直し引き下げが懸念材料に

予想レンジ

豪ドル円 80.00-85.00 円

南ア・ランド円 7.40-7.80 円

7月12日週の展望

豪ドルは底堅い動きとなるか。オセアニア国の経済正常化への期待が高まっていることが、豪ドルの支えとなりそうだ。今週発表された四半期ベースの NZIER ビジネス・オピニオン・サーベイの結果を見ると、建設部門を中心に人員不足やコストの上昇が深刻になる可能性があり、NZ のインフレ警戒は強い。この調査結果を受けて、NZ の金融機関は軒並み、NZ 準備銀行 (RBNZ) の利上げ予想を今年の 11 月まで前倒した。豪州も新型コロナウイルス・デルタ株の感染拡大というマイナス要因があるものの、NZ 同様に経済正常化への道が見えてきたことは豪ドルの支えとなる。

今週の豪準備銀行 (RBA) 理事会では、政策金利・3 年債利回りの目標水準を据え置いた。また、債券の購入プログラムは、9 月上旬の現行プログラム完了後も買入規模を週 50 億豪ドルから 40 億豪ドルへ減額して継続し、11 月に再考すると発表している。テーパリングについては、デルタ株の影響や、もう数カ月経済指標などを見る必要があるため決定は先送りされたが、可能性が決してなくなったわけではなく、市場では 11 月の理事会への期待感が高まっている。

来週の経済指標では、豪雇用統計が注目される。今年に入り、失業率は 1 月の 6.4% から、5.8%、5.6%、5.5%、5.1% と月を追うごとに低下している。新規雇用者数も常勤を中心に増加するなど内容も良好だ。NZ のように賃金上昇も伴えば、11 月のテーパリング期待がさらに高まることになるだろう。なお、隣国の NZ では、14 日に RBNZ の金融政策委員会 (MPC)、16 日には 4-6 月期の消費者物価指数 (CPI) が予定されており、NZ ドルの動きにも要注目だ。

南アフリカ・ランド (ZAR) は上値に限られるか。世界最大の資産運用会社であるブラックロックが、南アを含め新興市場の株式と通貨の見直しをオーバーウェイトからニュートラルに格下げした。格下げの要因は 2 つあり、1 つ目は新型コロナウイルスのワクチン接種が遅れている中で、デルタ株が蔓延していること。2 つ目はインフレの可能性が高まり、新興国がより迅速に利上げに傾くリスクがあることだ。これまで続いていた、ランド買いの中長期的なトレンドが変わりかねないかもしれない。なお、経済指標では 14 日に 5 月の小売売上高が発表される。

7月5日週の回顧

豪ドルは下落した。隣国 NZ の中央銀行 (RBNZ) の利上げが今年の 11 月に早まると、オセアニア系の金融機関が予想を前倒したことで、NZ ドルの動きに連れて豪ドルも底堅くなった。しかしながら、原油価格の調整売りや株価の下落で、上げ幅を吐き出して下げ幅を広げた。なお、上述のように RBA は政策金利・3 年債の目標水準を据え置き、債券の買い入れ見直しも 11 月に再考することを決定している。ZAR も上値が重く推移した。週初には OPEC プラス会合が物別れとなったことで原油価格が急伸したほか、政府と南ア公務員組合との賃金交渉の進展を好感して強含んで始まった。しかしながら、豪ドル同様に原油価格の調整売りをきっかけにコモディティ価格が下落。資源国通貨の ZAR も弱含んだ。(了)